

花博記念協会助成事業成果発表会

# 花と自然のフォーラム2011

~~~~~  
講演・発表要旨集  
~~~~~

平成23年11月3日（木・祝）

財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

## ●講演

### 「日本のガーデニングを極めるために ~植物を信じて植える庭~」

ガーデンデザイナー 奥 峰子

日本にガーデニングブームを巻き起こすきっかけとなった大阪の花博から20年余が経った今、ガーデニングはどれくらい浸透したのでしょうか？イギリスのガーデンを参考にたくさんの方がバラやハーブ、宿根草に魅せられ、多くの植物が入手可能となったことは裏腹に日本の気候との戦いに敗れて夢砕けたガーデナーも数多くいます。あのガーデニングブームの遺産ともいえる現在の日本のガーデニングマニアがこれからさらに前進していくために必要な事は植物を知ること、そして日本の気候風土に逆らわないこと。さまざまな植物の持つ特性を理解して計画的な植栽を行う事で、日本のガーデニングの可能性はまだまだ広がります。海外の先端に行くガーデンデザイナーの庭を参考にしつつ、日本での事例を中心とした色彩豊かな花壇・庭づくりを紹介させていただきます。

## ●成果発表

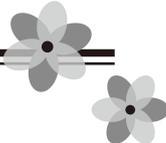
### 野生ニホンリス保全活動とそこでの環境教育

守山リス研究会〈愛知県〉

ボランティアとして哺乳類の保全活動を「自然下給餌法」で開始しそれを支える具体的な活動を写真によってご報告します。長期的な棲息環境を形成するためフィールドをつなげ、2kmx10kmの巨大な緑の回廊をつくることを目指しています。そのため大学・企業・住民・行政との具体的な協働のイメージ図や考え方の紹介と「出来るところからやる」という協働状況をご報告します。また希少種生物の保全を協働活動するうえで、求められるボランティアとしての視点・3現主義の考え方・活動のあり方とマネジメント力の必要性について20年間の経験からご報告を申し上げます。そういった保全活動の中で、計画された定期調査項目を子供達といっしょに実施することで、子供達には道具の使い方、データの蓄積とその重要性を学習してもらいながら野生動物を守るためにどんなことを大人が考えてやっているかを一緒に体験をするという環境教育の事例を出来るだけ数多くご報告します。

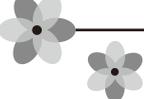
---

---



## 越前町立福井総合植物園 植物標本整理事業

---



(財)越前町公共施設管理公社〈福井県〉

植物園の様々な活動の基礎となる資料の中でも、植物標本は、過去の植物の生育状況の直接的な証拠であり、植物を調べる際の見本としても重要です。越前町立福井総合植物園には、容積 750 m<sup>3</sup>の植物標本庫があり、約 10 万点が保管されています。これらには、福井県で最初の植物目録を含む「福井県生物目録」(1933)の根拠となっている標本集も約 3600 点含まれていますが、完全には整理されていませんでした。平成 19～21 年度の 3 力年にわたり、花博記念協会助成をいただき、未完成標本の補完、完成標本の整理、専門家を招聘しての分類学指導・講演会の開催を行わせていただきました。本事業では、福井県域絶滅となっているオキナグサ、コキンバイザサなどの新たな証拠標本や、イヌナズナ、キンギンボクなどのこれまで県内記録が無かった植物の標本も見出されました。その他にも多くの稀少植物の過去の分布情報が得られ、自然環境保全への有用な情報として活用できるものと考えています。

---

---



## 生きもの生息環境調査と環境学習リーダーの育成

---



自然遊学館わくわくクラブ〈大阪府〉

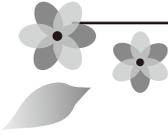
活動拠点「自然生態園」の中心「トンボの池」に雨水を貯めて 15 年になります。ビオトープの保全には、環境モニタリング調査に基づく順応型管理が必要で、「身近な自然」の検証には、地域の自然地との比較調査が欠かせません。専門家の指導を受けながら、「トンボの池」のほかにも 3 箇所地域のため池を選び、環境を比較調査して、「トンボの池」の自然生態的な位置づけと今後の方向性を考えました。自然観察会では、会員も専門家とともに一般参加者にビオトープ解説を試み、自己研鑽に励みました。見学交流会では、ビオトープ創造の先進地を訪ね、今後の活動の方向性を探りました。学習会では外来種や多様性などをテーマに専門家を交えて議論しました。貝類の大まかな分類ができる小学生や、水生昆虫調査に加わる小学生、爬虫類捕獲が得意な中学生などが育ち、自然環境学習リーダーの育成に希望を持っています。

---



## 全国セミの抜け殻しらべ

---



セミの抜け殻しらべ 市民ネット〈埼玉県〉

セミは日本人にとって、とても身近な昆虫です。しかし、その人が住んでいる地域や自然環境によって身近に感じているセミの種類が違うことに気付く人はわずかです。また、近年の日本国土の環境変化によってセミの生息域が変化しつつあることも、あまり詳しくは知られていません。そのフィールドに生きるセミの種類と量を継続的に調べることで、そのエリアの自然環境の変化を数値で感じ取ることが出来ること、セミの成虫ではなくその抜け殻に注目する理由、セミの抜け殻を正確に見分けるセミの抜け殻判定士の養成などを説明し、全国統一手法で調査することの意義を紹介します。

また、2010年に当団体で作成した調査マニュアルを基に全国で実施された「セミの抜け殻しらべ」のデータを整理し、そこからどんな事が確認され、どの様なことが推測されるかなどを紹介します。

---



## トウツバキ園芸品種の保全に関する日中共同研究

---



(財)花と緑の銀行〈富山県〉

接ぎ穂の過剰採取や不適當な管理によって衰退しているトウツバキ園芸品種の母樹や野生の巨木を保護するため、平成19年度から22年度にかけて次の事を実施しました。(平成19・20年度花博記念協会助成)

- 1) 昆明市、大理市、楚雄市において、寺院などに栽培されているトウツバキ園芸品種や野生の古樹(樹齢100年以上)について、生育環境、生育状況、推定樹齢、樹高、胸高直径、花色、花冠長、花冠幅などを測定し、データベースを作成。
- 2) 楚雄市、大理市における野生トウツバキ群落の森林植生および個体群の調査。
- 3) 野生トウツバキ個体群における花色や花形の多様性についての調査。
- 4) トウツバキの試験管内接木による増殖方法の研究。
- 5) イ族、白族など雲南省の少数民族におけるトウツバキの民俗植物学的調査。

このうち平成22年度は、初めて結実期の調査を大理市、楚雄市の野生個体群において行い、野生トウツバキの光環境と実生による更新との関係を明らかにしました。古樹調査は昆明市および楚雄市周辺で12本を調査しました。